

LAN アクキュライザーの活用(3) ーアナログと配信音源再生(3)ー

1. 始めに

前報(2)に引き続き、LAN アクキュライザーの導入により配信音源のレベルが上がってきたことで、アナログと配信音源再生の直接比較を実施していきます。

2. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴計画

今回試聴するのはバッハのヴァイオリン協奏曲 1 番と 2 番および二つのヴァイオリンのための協奏曲です。

アナログ盤

ドイツグラモフォン 483 5219

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

マーガレット・バーチャー (ヴァイオリン)

ジェフリー・カーン指揮ロスアンゼルス室内管弦楽団

STAGE+

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

マーガレット・バーチャー (ヴァイオリン)

ジェフリー・カーン指揮ロスアンゼルス室内管弦楽団

3. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、[スピーカーアクキュライザーの導入\(24\)](#)で報告していますが、この時点からの変更は前報(1)で述べたとおりです。

録音年代が新しく、アナログ盤の再生は RIAA カーブで、位相反転はしていません。

アナログ盤の再生では、ソロのヴァイオリンもバックのアンサンブルも、デジタルマスターらしくウームトーンよりはスッキリ系の落ち着いた音で、通奏低音は量感があります。

STAGE+再生では、すっきりとしたクリアな音質で、ヒラリー・ハーンのボウイングの細かい表現もよく分かり、デジタル色は後退し、通奏低音は見通しがよく明瞭です。

4. まとめ

アナログと STAGE+双方に関係する変更の効果により、ともにグレードがあがり、

STAGE+の配信音源の再生では、2ヶ所へのLANアキュライザーの装着の効果でデジタルマスターのアナログに似た音になっている印象です。

以上